

国際バカロレアにおける言語プログラム の改革—その1

岡 崎 眸

1 国際バカロレア教育

国際バカロレア (International Baccalaureate) は、ヨーロッパ共同体の付属学校であるヨーロッパ学校に続くものとして、多国籍企業や国際機関の増設に伴う海外子女の増加を前に彼らの一貫した教育を与えることを目標に、1969年に成立した。最低二年間に渡って一定の教育課程を履修した者に受験資格を与え、国際バカロレア本部が統一して行う試験に一定の点数を稼いだ者に国際バカロレア資格 (International Baccalaureate diploma) を与えるというものである。

国際バカロレア教育の目的を、西村 (1989: 38) 次のように整理している。

「**全人教育 (the education of the whole man) が強調され、a) いかなる職業、いかなる学科専攻にも必要な「道具」の利用法を習得させる広範な一般教育の必要性、b) できるだけ柔軟に科目を選択させ、生徒の興味や能力に応えるようにし、同時に均衡のとれた教育を確保させること、の二原則に従って計画を立てている。**」

このような目的の実現のために国際バカロレア規約によって具体的な教育課程をはじめ資格取得までの手続きが細かく定められている。かいつまんで見てみよう。

- a. 国際バカロレア資格取得試験の受験資格は国際バカロレア加盟校において決められた教育課程を履修した者に限って与えられる。
- b. 試験は2年以上に渡って正規に学習した6科目について行われる。6科目のうち3ないし4科目を上級レベルで残りを下級レベルで受ける。各教科の履修時間は上級レベルが最低240時間、下級レベルが150時間である。

(各科目全て原則として上級と下級の両レベルが置かれる。)

- c. 教育課程は以下のものからなり、各群より1科目ずつ合計6科目を選択する。

1群 語学A (第一言語) 世界文学を含む。

2群 語学B (第二言語) あるいは語学Aで選択した以外の語学A

3群 人間学：歴史学/地理学/経済学/哲学/心理学/社会人類学/組織論

4群 実験化学：生物学/化学/応用化学/物理学/自然科学/実験心理学

5群 数学： 数学/数学・計算/数学研究/高等数学

6群 以下のものから1科目選択

美術/デザイン/音楽/古典語 (ラテン語及びギリシャ語) / 計算機
学校独自の必要性によって設置した科目 (下級レベルのみ)

更に以上の6科目に加え、以下の三つの条件を満足させなければならない。

い。

(1)知識の理論 (Theory of Knowledge) : 最低100時間の授業

(2)論文 (Extended Essay)

(3)創造的・審美的活動及び社会奉仕活動

- d. 2年間の準備期間の終了時点で全科目一斉に試験を受ける。この試験は全て国際バカロレア本部にて作成・評価が行われる。全ての科目で先ず内部評価が最大限20%行われ、後に本部で調整される。評点は1から7までに点数化される。各科目最高点が7点最低点が1点である。

- e. 国際バカロレア資格の授与条件は試験の総点が24点以上の受験者に与えられる。

以上の手続きによって取得した国際バカロレア資格は、ヨーロッパ、アメリカ、カナダなどにおいては高く評価され、そのまま大学の入学資格として認められている。日本においても近年その認知が進んで来ている状況がある。例えば多くの私立大学においては入学試験に代わるものとしての扱いを受けている。また国立大学においても、面接などと併用することによって入学試験の代用とする大学も見られるようになった。但し以上は外国人及び日本人が海外で取得した国際バカロレア資格について言えることで、日本人が日本国内で取

得たものについては認められない。(筑波大学だけは外国人と自国人の区別なく認知している。)

国際バカロレア資格の受験者は年をおって増加の一途を辿っているが、1986年の調査によれば、日本人の受験者は222人でイタリア人の241人に続いて第8位となっている。また日本における国際バカロレア加盟校も神戸のカナディアンアカデミー、東京の聖心インターナショナルスクールなど6校に上っている。

本稿では、直接的には加盟校の増加によって様々の問題が表面化し、現在改革の真っ只中にある「言語」の科目(語学Aと語学B)に絞って国際バカロレアの教育課程を検討する。

2. 改革の動き

ヨーロッパ共同体のヨーロッパ学校を組織においても教育理念においても引き継いでいることから推測できるように、国際バカロレア発足当初は加盟校がヨーロッパ諸国やアメリカなどに限られていた。このことから、語学の取り方としては以下のような選択が一般的であった。第一言語としての語学Aには、英語、フランス語、スペイン語の中からその学校の授業言語が選択された。語学Bには非ヨーロッパ語系を母語とする学生は自らの母語を選択し、ヨーロッパ語系を母語とする学生は自らの母語でない別のヨーロッパ語を選択した。例えば、日本語を母語とする学生は、学校の授業言語が英語であるならば英語を語学Aとして選択し、日本語を語学Bとして選択した。他方、英語を母語とする学生は、英語を語学Aとして選択し、語学Bとしては例えばスペイン語を選択するという具合であった。

このような選択の形式は、全体として受講者に少ない負担で高度の内容の学習を可能にした。つまり、語学Aとして選択される英語、フランス語、スペイン語は国際バカロレア規約によって定められた授業言語でもあるので、それらを母語としない受講者、つまり日本語などを母語とする学生をも含めて高度の言語能力を持っているのが一般的である。従って、語学Aの授業レベルは相当に高くても問題がない。更に、ヨーロッパ語系を母語とする学生にとっては言

わば同系の他のヨーロッパ語系言語の学習はそれ程の負担を学生に強いるものではない。同様に、非ヨーロッパ語系の学生にしても自らの母語を多くの場合語学Bとして選択するのでそれ程の学習負担がなくともかなりの内容が学習可能である。従って、語学Bもかなりの高度のレベルで問題がない。

このような状況を反映して、語学Aも語学Bも、それぞれ第一言語、第二言語という規定がありながら、それほど内容的に変わりのないシラバスが採用された。言い換えれば、語学Bが第二言語（外国語）というよりは第一言語としての扱いを受けたのである。

しかしながら、近年状況は大きく変わって来た。第一に、バカロレア加盟校が大幅に増加し、ヨーロッパのみならずアジア、アフリカ諸国においても国際バカロレア教育は広く認知されるようになった。このことによって受講者の母語も多様化し、ヨーロッパ語系を母語としない受講者も一つの層を構成するようになった。第二は、受講者のエキゾチックな言語への学習要求に高まりである。日本語を初めとして、ヨーロッパ語系ではなくいわば外国語らしい外国語を学習したいという要求が高まって来たのである。第三は、民族語・民族文化の継承育成という観点から受講者の第一言語を重視する傾向が内外において出てきたことである。このような動きを受けて、従来専らインターナショナルイズムの追求、つまり言語は英語、フランス語、スペイン語の何れかで十分という姿勢で来た国際バカロレア教育はここに来て、ナショナルイズムの追求とも折り合いを付ける必要性が出て来たと言える。

このような状況の変化の中で、国際バカロレア本部では、語学A、語学Bという従来の言語のプログラムを、1. 内容的妥当性、2. 信頼性、3. 対比性、という三点から見直すことになった。この三点は、特に国際バカロレア教育のように地球規模で受講者に統一プログラムを与えそこでの成果を資格試験によって評価し資格を授けるという制度にとっては重要である。

第一の内容的妥当性とは、プログラムの内容に関わる問題である。これは特に語学Bの問題として浮かび上がってきた。語学Bは、バカロレアの規定からすると、内容的にはゼロから学習を始めて上級レベルで240時間の授業で学習可能なものである。しかしながら、現実にはその言語を母語とする学生をも受

講対象に含めていることから明らかなように、一言で言えばレベルが高く240授業時間でカバーできる内容にはなっていない。日本語の指導内容を一目すれば分かることだが、上級レベル（HL）、下級レベル（SL）共に文学鑑賞的分野を多く含み、日本の高校国語科の指導内容にはるかに近い。つまり、240時間で学習可能な外国語科目としての内容を提供しているとは言い難いのである。

更にこのような問題のみでなく、外国語教育の発達もまた外から教授内容の再検討を迫ることになった。つまり、外国語教育の中で学習者のニーズを重視する方向性が強く打ち出されてくると同時に、伝達能力の養成に目標が絞られるようになって来たからである。伝達能力の養成とは、異文化状況の下で機能し得る言語能力の育成を意味する。この目標は、従来の第一言語の学習内容と変わらない、文学鑑賞に偏った外国語教育では、学生はいざその言語が専ら使われている社会に投げ出されてみると、全く幼児同様で何らそれまで習った言葉を使って自らの用を足すことができないという事態への深刻な反省から出てきた。

これらの点から考えると、従来の言語、特に語学Bはその内容的妥当性が極めて低かったと言える。

次に信頼性の問題はどうかであろうか。上記の妥当性に比較すれば問題はそれほど重症ではない。しかしながら語学Bの日本語を、例えば日本語を母語とする学生が受ける場合と英語を母語とする学生が受ける場合を比較すると、後者には大変なハンディがある。このような学生の言語上のバックグラウンドの違いによる学校間の格差が、試験問題の難易度の年によるぶれや学校によって異なるオーラルの試験の内容・レベルといった問題として出てくることによって信頼性の低下を来していると言えよう。

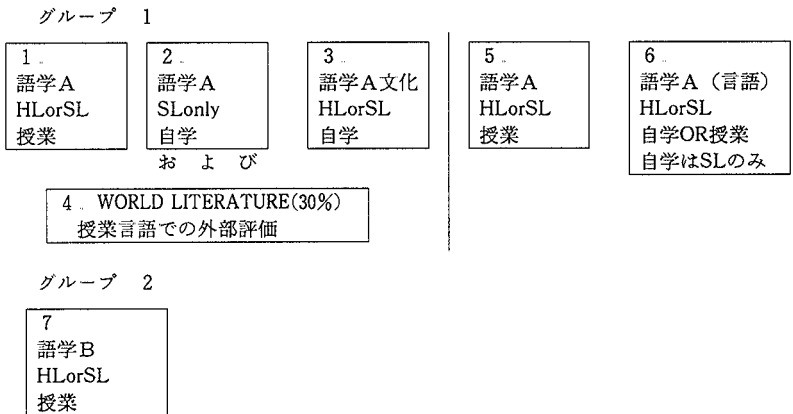
最後の対比性はどうかだろうか。対比性とは異なった言語のプログラムが相互に匹敵できるものであるかということである。同じ果物と言っても「りんご」と「みかん」がそもそも比較できないのと同様に、同じ言語と言っても例えば英語と日本語はまるで違うものであり、両者を同一の物差しで規定するのは難しい。この対応性の問題は第一の妥当性同様大きな問題を抱えている。

ヨーロッパ語系と日本語、中国語、アラビア語などで同一のシラバスを使う

とした場合、シラバスで設定された内容の達成にかかる時間、言い換えれば受講者の負担は二つのグループの間で大きく異なる。例えば英語を母語とする学生にとって、フランス語で詩や小説を読むのと日本語で同じことをするのは、それに費やす時間はまるで違う。前者は240時間の授業時間で可能かも知れないが、後者は全く不可能である。つまり240時間で教授可能な内容は言語によってある程度変わって来ると言わざるを得ない。現行のバカロレアの言語のプログラムでは、このような言語間の違いは無視されほぼ同一のシラバスが与えられている。これはむしろ異なる言語を対等に扱っていないことであり、言い換えれば言語プログラム間の対比性が低いと言える。

3. 改革案

以上のような見直し作業を受けて、1987年1月に言語の改革案が国際バカロレア本部により提出された。それによると、言語はグループ1とグループ2に分けられ、更にグループ1は6コースに分けられ細分化された。グループ2は従来通りの1コース2レベルとされた。但し、SLに代えてAb initio（後述）を幾つかの言語においては置くこととされた。これらのコースは図式化すると以下のようになる。



同時に、資格取得のための要件として以下が定められた。

1. グループ1から語学Aを履修すること。

2. グループ2から語学Bを履修するか、あるいはグループ1から第二番目の語学Aを履修すること。

具体的には：

1. 資格を取得するためにはグループ1から1. 2. 3の何れかのコースを履修しなくてはならない。
2. この場合、世界文学（WORLD LITERATURE）は必修である。
3. 資格を取得するためには、更にグループ2から一つ、あるいはグループ1から別にもう一つコース（具体的には5か6のコース）を履修しなくてはならない。
4. この場合、最初のコースと重複するので世界文学（WORLD LITERATURE）を履修する必要はない。しかし、新たに世界文学コースの負担に匹敵する内容を持ったコースワークが追加される。
5. 自学（self-taught）のコースは合計で1コースのみに限られる。
6. 資格取得のための第六番目の選択肢として5. 6. 7のコースの何れかを選択してもよい。

1から7の各コースの概要を特に従来のコースとの違いに注目して見てみよう。

まず、レベルは自学コースである2のコースを除いて従来同様どのコースにもHLとSLが置かれる、2のコースはHLはなくSLのみである。グループ1の言語は従来の語学Aである。基本的に受講者の第一言語であり、言語のみならず、文学や文化の学習も焦点とする。グループ1には先に見たように、従来の一つのコースに代えて合計六つのコースがオプションとして設けられている。

1のコースは、文学鑑賞中心の典型的な語学Aのコースである。但し、新設の4の世界文学のコースとの兼ね合いで現行の語学Aの内容よりは減少するかもしれないとされている。

2のコースは、当該校で様々な理由で教授できない言語に限って置かれる自学自習のコースである。受講者は自学が可能な言語能力を持つと想定されることから、授業言語とのバイリンガルとなろう。このコースは、従来国際人の養成という観点から、特にその言語の使用範囲が地理的に限られているとか、そ

の言語が使用されている国の政治的力が弱いとかなどの場合の言語を不当に無視して来たことを反省し、受講者の母語をより重視するという考え方に基づいて導入されたものと考えられる。従来は語学Bにおいてチューターの下で行われて来たものに相当する。先に述べたようにSLのみが置かれる。評価においては、試験官による直接口頭試験はないものとし、その言語にふさわしい独自の評価形式を新たに作り出す必要のあることが提起されている。

3のコースは完全な新設のコースである。文化的課題をトピックとして受講者の母語で授業が行われるものである。現段階ではアラビア語によるイスラム文化の研究がこのコースの例として挙げられているだけで、プログラムとしての展開は今後に待たれる。但し、このコースの設置については受講者のニーズが高いこと及び国際バカロレア本部の承認が条件となり、安易に設置はできない。評価は口頭試験で行われる。

4のコースは世界文学（WORLD LITERATURE）と言われるコースである。このコースは自己完結したコースというよりは、1から3までのコースを選択した者について必修となるものである。このコースは、グループ1全体に占める時間的割合を増加させることによって、特に2のコースの受講者については授業部分を増やすこと、3のコースの受講者については国際性を育てることを補完的に目指すという使命をも担わされている。つまり、プログラム全体に占める自学自習の部分の割合が増加すれば、プログラムとしての妥当性、信頼性が低下すると考えられること、及び3のコースの例から分かるようにイスラム文化をアラビア語で学習する場合には民族文化の継承はなされても国際的な広がりを持った世界の文化遺産を継承するとはならないと考えられるからである。評価は外部評価として行われる。

5のコースは第二番目の語学Aとして履修するバイリンガル向けのコースである。従って世界文学を再度履修する必要はない。但し、世界文学コースの学習負担に匹敵する位のチューター付きの学習あるいはプロジェクトワークが課される。

6は新設のコースである。レベルからすれば現行の語学BのHLに相当するコースだと言えよう。但し、どちらかと言えば文学鑑賞にではなく、言語学習

に焦点が置かれる。その言語のネイティブスピーカーあるいはそれに近い言語能力を持つ受講者が対象とされ、学習形態としては授業及び自学自習の両方がある。自学の場合は2のコースと同様HLはなくSLのみ置かれる。

グループ2は、以下のようにコースとしては一つのオプション（コース7）のみからなる。7のコースは、第二言語の受講者を対象とし、学習形態は授業のみである。つまり、従来のように自学は認められていない。また、従来の語学Bの場合と違ってその言語のネイティブスピーカーは原則として除かれる。

「原則として」と言うのは、何を以てネイティブスピーカーとするかという規定が、両親の国籍が二国に渡っているとか、自分自身が生まれ育った国と今現在生活している国が違ふとかなどにより現実的には難しいことから、最終的には各学校の判断によらざるを得ないからである。

以上の他に以下のような改革点が同時に提案された。第一は、シラバス及び使用テキストについての規制が強化されることになった点である。具体的には、どのコースについても使用テキストの50%をバカロレア本部が指定することになった。現行はいわば100%各学校の自由である。つまり、現行では前以てこれこれのテキストを使用するという申し出を国際バカロレア本部に行いその承認を得ていれば学校独自のテキスト選択が可能なのである。但し、例えば、時代を違えてとか異なるジャンルからといった形で、どのような範囲から選ぶという大枠の規定はある。

第二は、授業したコースについては直接試験官の面接による口頭試験を原則とするという点を従来同様堅持することと併せて、面接試験のあり方の検討を提起している。

以上のような大幅な言語プログラムの改革の理由として、国際バカロレア本部は、以下の四点を挙げている。

1. 提供される全てのコースは受講者にとって、妥当性、信頼性があり更に相互に匹敵し合うものでなければならないという原則を現実化するため。
2. 特に授業言語を外国語とする学生の母語教育を重視するため。
3. 受講者の母国における状況を考慮し、母国でも十分成功し得るため。
4. 但し、コースはそれぞれの加盟校において現実的（財政的に人的に）に開

講できるものでなければならない。

理由の第一と直接関連するのは語学Bからのネイティブスピーカーの排除と後述するコース7のSLへの段階的なab initioの導入であろう。第二は、バイリンガル向けとして新しく設置が提起された自学のコース2として実現されている。第三は、語学Aを従来のように一つとするのではなく、複数（6コース）のオプションを置いたことに見られる。第四は自学コースを認めたことに現れている。

参考文献

西村俊一編著 国際的学力の探究 国際バカロレアの理念と課題。創友社。1989。

Roger M Revised Programme in Languages. 1986.

INTERNATIONAL BACCALAUREATE ORGANISATION

PROFILE FOR 1986

Headquarters:

IBO
Route des Morillons, 15
1218 Grand Saconnex
Geneva, Switzerland



Administration:

President of the Council:
Dr. P. Gauthier, Netherlands

Director General: Dr. R.M. Peel

THE ORGANISATION'S AIMS

IBO is an international educational organisation holding consultative status with UNESCO and registered as a Foundation with the Swiss Federal Government. The International Baccalaureate (IB) is a two year pre university programme of studies designed to meet the following aims:

- (i) promote international understanding within the context of intellectual rigour and academic excellence in the final years of secondary school.
- (ii) provide matriculation for university entry compatible with criteria required by national authorities.
- (iii) meet the learning needs of a mobile expatriate community minimizing dislocation in the education of children as they move from country to country

The IB Programme

The programme seeks to incorporate the best aspects of traditions in several national upper secondary school systems in its curriculum design. Emphasis is placed on a programme which ensures rigour and excellence covering the main fields of human experience and academic pursuits. Students are required to follow more subjects than the average UK "A" level student. IB programmes studied over the two year period give a greater degree of depth than American AP subjects. The IB's philosophy emphasizes the internal coherence and integrity of the programme as a whole.

Diploma candidates are required to pursue studies in the following areas:

- Language A (first language or language of instruction)
- Language B (second language)
- Study of Man
- Experimental Sciences
- Mathematics
- A further option (either Art/Design Music, Classical Language, Computing Studies or an approved school based syllabus or a supplementary subject from areas 1-4)

Three subjects must be presented at the Higher Level (minimum 240 hours teaching time each) and three must be at the Subsidiary Level (minimum 160 hours teaching time each) over two years. In addition, diploma candidates are required to:

- engage in community service or aesthetic activity weekly over the two years of the programme
- follow a course of Theory of Knowledge
- complete a significant piece of personal research - the Extended Essay

Assessment and the Award of Diplomas

Consistent with the general and subject-specific objectives of IB courses, focusing on the development of cognitive skills and affective capacities, assessment procedures are designed to emphasize process rather than content. External assessment measures are mainly written examinations (essays, short answer questions, document and data-based questions, multiple choice objective tests) and oral examinations in languages. A measure of teacher based internal assessment is subject to external moderation. Examinations are held world wide each May and in November for Southern Hemisphere Schools. Examinations may be awarded in English, French or Spanish.

To obtain a diploma candidates must achieve a total score of at least 24 points and not transgress specified failing conditions. Bilingual diplomas are awarded to students offering two languages at mother tongue levels.

Non diploma candidates are awarded certificates recording the grades obtained in individual examinations.

The examinations are conducted by an international Examining Board and administered by the Examinations Office located at the University of Bath, UK.

Its History, Governance and Administration

The organization was created in Geneva in 1963 by a group of member schools of the International Schools Association (ISA) committed to establishing a truly international curriculum. The International Schools Examination Syndicate (ISES) was initially supported by expertise from the founding schools, grants from foundations and support from governments. IBO was finally established in 1967.

After some years delineating the structure of the programme, preparation of syllabuses, course outlines, teachers guides and field testing examinations, the first candidates were presented for the full diploma in 1971. The first three years constituted a trial period during which university entrance was assured to diploma holders from a restricted number of pilot schools. The project received unanimous recognition by UNESCO's General Conference in 1974 and the end of the trial period was confirmed at the first Intergovernmental Conference at the Hague, Netherlands in 1976. Rapid expansion has followed. To date there are 350 participating schools in 55 countries. In 1986, 2007 students were awarded full diplomas representing a 77% pass rate. In addition, another 3500 students sat for individual certificates.

IBO is governed by the Council of Foundation having an equal number of representatives of the Standing Conference of Member Governments (SCG), the Standing Conference of Heads of Member Schools (HSC) and ad personam members elected by Council Officers of the Examining Board serve as ex officio members. Council meets annually to receive reports from its constituent organs, approve IBO policy and its budget and elect an Executive Committee to assist the Chief Executive Officer, the Director General in the administration of the Organization.

IBO's headquarters are situated in Geneva. Curriculum revision is assigned to Subject Committees consisting of examiners and practicing teachers. Wider issues of curriculum development are the domain of the internationally composed Curriculum Board presided over by the Director General.

The IBO Community

Since 1971, over 12,600 students have been awarded diplomas and gained entry to universities and other tertiary institutions in nearly 70 countries. The students represent over 120 different nationalities. The following statistics cover the 1971-86 examination period.

Leading Nationalities of Diploma Holders:

1 United Kingdom	1976	4 West Germany	656	7 Spain	413	10 Iran	288
2 United States	1885	5 Netherlands	546	8 Sweden	357	11 India	271
3 Canada	895	6 Italy	517	9 France	299	12 Japan	260

Leading Countries Enrolling Diploma Holders at their Universities:

1 United Kingdom	2121	4 Switzerland	592	7 France	257	10 Hong Kong	201
2 United States	1960	5 Netherlands	279	8 Spain	209	11 Japan	136
3 Canada	893	6 Germany FRG	273	9 Italy	204	12 Sweden	125

Main Schools (ranked by diploma holders):

1 United World College (UWC) Atlantic	UK	2101	7 British Schools, Montevideo	380
2 International School of Geneva		1269	8 UWC, Armand Hammer, U.S.A.	259
3 UWC Lester Pearson, Canada		859	9 Lycée International St Germain en Laye, Paris	256
4 UWC South East Asia	Singapore	526	10 UWC Adriatic, Italy	241
5 United Nations International N.Y.		492	11 Collegio San Eustasio de Koska	Spain 185
6 St Clare's Oxford		387	12 International School London	181

Leading U.S. Universities Enrolling IB Diploma Holders (1986 figures in brackets):

1 Harvard/Radcliffe	104 (18)	MIT	61 (6)	11 Barnard	39 (3)
2 Brown	71 (7)	7 Stanford	49 (9)	12 U of Michigan	39 (7)
3 Yale	64 (9)	8 Bryn Mawr	41 (6)	13 U of Pennsylvania	39 (12)
4 Cornell	63 (14)	9 Columbia	41 (6)	14 U California Berkeley	33 (5)
5 Princeton	61 (8)	10 Georgetown	40 (6)	15 Tufts	28 (9)

Leading U.K. Universities Enrolling IB Diploma Holders:

1 L.S.E.	165 (21)	6 London Imperial	63 (9)	11 Manchester	45 (5)
2 Oxford	130 (12)	7 London U.C.L.	63 (9)	12 Leeds	44 (4)
3 Sussex	129 (18)	8 Kent	61 (9)	13 Warwick	41 (2)
4 Cambridge	108 (10)	9 Bristol	60 (8)	14 York	39 (4)
5 Edinburgh	69 (7)	10 Southampton	50 (8)	15 Birmingham	39 (4)

1986 GRADE DISTRIBUTION FOR SELECTED HIGHER LEVEL SUBJECTS (by percentage) (criteria: more than 200 candidate entries)

	7	6	5	4	3	2	1	Average
English A	6	20	32	23	11	3	0	4.72
Spanish A	10	32	30	19	3	0	0	5.15
English B	11	30	37	19	3	0	0	5.27
French B	13	37	32	14	4	0	0	5.40
Spanish B	18	34	29	10	10	0	0	5.39
History	9	20	28	20	19	4	0	4.70
Economics	4	20	30	22	17	6	1	4.51
Geography	10	14	34	22	14	5	2	4.63
Biology	14	18	24	27	11	5	1	4.90
Chemistry	7	14	16	37	18	6	2	4.30
Physics	10	18	34	24	11	2	0	4.83
Mathematics	9	11	19	24	19	14	4	4.11
Art/Design	26	30	21	17	7	0	0	5.51

1986 GRADE DISTRIBUTION FOR SELECTED SUBSIDIARY LEVEL SUBJECTS (by percentage) (criteria: more than 200 candidate entries)

	7	6	5	4	3	2	1	Average
English A	5	15	29	33	14	4	1	4.50
Spanish A	15	30	30	18	3	3	0	5.25
English B	13	29	37	18	3	0	0	5.27
French B	17	25	23	26	8	2	0	5.10
Spanish B	12	24	35	17	11	1	0	5.06
History	10	17	38	24	10	1	0	4.90
Economics	5	11	24	29	20	8	3	4.16
Geography	10	13	26	23	20	6	3	4.41
Biology	12	16	19	26	15	10	1	4.49
Chemistry	3	13	39	24	18	3	0	4.50
Physics	5	11	27	34	16	5	1	4.35
Mathematical Studies	0	4	25	41	23	6	1	3.95
Mathematics (subsidiary)	7	10	17	22	24	17	3	3.91

Distribution of Grades Awarded to IB Diploma Holders

Grades awarded:	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1971-85 %	3.3	5.1	5.8	6.8	7.7	7.6	8.0	7.2	7.3	6.1	5.5	5.0
1986 %	4.2	5.0	6.9	7.4	7.2	7.1	7.9	6.8	7.4	6.1	5.7	5.2
Grades awarded:	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45+		
1971-85 %	4.2	3.7	3.0	2.4	2.0	1.5	1.1	0.7	0.4	1.4		
1986 %	5.1	4.3	3.2	2.1	2.2	1.9	1.1	0.6	0.4	1.5		

Cumulative Percentile for 1986 Diploma Holders (2007 awarded)

IB grade %	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
%	4	8	11	18	27	34	41	50	55	62	71	73
IB grade %	36	37	38	39	40	41	42	43	44+			
%	79	83	87	90	92	94	96	97	98			

Within this world wide organization liaison with schools is assured by the following regional structure:

IB Asia	IB Europe	IB Latin America	IB North America
IRO	IRO	IRO	IBNA
United World College of S.E. Asia	Rte des Morillons 15	St Georges College	200 Madison Avenue
P.O. Box 15	1218 Grand Saconnex	1878 Quilmes	New York, N.Y. 10016
Singapore 9111	Geneva Switzerland	Buenos Aires Argentina	U.S.A.

Examinations Office, IBEX, University of Bath, Claverton Down, Bath BA2 7AY, United Kingdom.
London Office (inc. Africa and Middle East): 18 Woburn Square, London WC1H 0AL.